

### 3 超高齢者社会を見据え牛車腎気丸に期待すること

長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科

松尾 朋博

近年、本邦の総人口は減少に転じている。しかしながら総務省統計局によると2023年10月1日現在の高齢者の割合は29.1%を占め、2050年にその割合はピーク(36.4%)に達すると予想されている。このように未曾有の超高齢社会にすでに突入しているが、我々医療従事者はあらゆる年代にわたる多様なライフステージに対応した健康の維持と促進を支援しなければいけない。これには、様々な職種や診療科が横断的に協力し合い、身体面だけでなく精神的な健康も含めた包括的な医療の提供が求められる。

高齢者では年齢や全身併存症およびその治療の結果として発生する生理的機能の低下により、いわゆる『腎虚』の状態に容易に陥る。『腎』とは生殖、成長発育、水液代謝など体内の多くの重要な機能のことを指し、我々泌尿器科と最も関連があることは想像に難しくなく、この機能低下(『虚』)によって起こる代表的なものとして下部尿路症状(LUTS)と性機能障害が挙げられる。

腎虚によるLUTSの出現は患者の生活の質に大きな影響を及ぼし、特に高齢者では症状による煩わしさから運動やレジャーなどの外出行動を避けるようになり、全身活動性の低下からいわゆる“フレイル”の状態に陥る。このフレイルの状態も腎虚を代表する全身状態を指し、腎虚による関連症状の出現→全身活動性の低下→フレイルの出現/悪化→腎虚による症状の悪化、という負のスパイラルの連鎖は、患者の全身状態の改善をより困難なものにする。

腎虚による代表的な泌尿器科疾患であるLUTSに対しては運動の励行や食事改善などの行動療法が第一選択であるが、効果が不十分な場合には薬物療法の対象となる。しかし薬物療法では有害事象の発現が懸念され、特に頻用される $\alpha$ 1受容体遮断薬や抗コリン薬はそれぞれ低血圧や便秘などを誘発し、高齢患者では重篤化する可能性もあるため、十分な注意が必要である。

一方、腎虚を代表する漢方薬として牛車腎気丸が挙げられる。牛車腎気丸は八味地黄丸に牛膝、車前子を加えたもので補腎機能があり、古くから前立腺肥大症をはじめとするLUTSに使用されている。さらに基礎・臨床それぞれの側面からエビデンスが構築されつつある薬剤である。また最近では牛車腎気丸のフレイル・サルコペニアに対する効果も検証され、LUTSに対して直接的および間接的、両面において有効性を発揮できると期待されている。しかしながら、現状、牛車腎気丸の排尿関連における各種ガイドライン上の推奨グレードはさほど高くはない。

以上のように我々を取り囲む社会背景も考慮し、特にLUTS診療に関する『これまで』と『これから』の展望について、牛車腎気丸に期待することを皆さんと共有したいと考える。